

1 学 年 第1学年

2 実践内容

～河輪小学校とのリモート交流授業～

国語科「くちばしくいずたいかい」をひらこう 『くちばし』

<事前の手立て>

国語科の学習に入る前に、リモートで交流することに特別感を抱かないように、学習時間と休み時間に一度ずつ、リモートで交流をした。

①リモートダンス発表(5/23(火))

運動会で踊ったダンスを発表した。互いによいところや似ているところを見つける視点を与え、ダンスを見た後には感想を伝えあった。



②リモート昼休みの交流(5/30(火))

ネームプレートを見て名前を呼び合ったり、教室にある本を紹介したり、同じ教科書や持ち物のキャラクター等共通点を見つけたりして楽しんだ。

<国語科「くちばし」学習展開>

1	○学習の見通しをもつ。リモート(6/20(火)) ・互いの教師が「くちばしクイズ」を出し、自分たちも作りたいたいという思いをもつ。
2	○教師の範読を、自分の予想と比べながら聞き、内容の大体を知る。
3~5	○3種類の鳥のくちばしについて、「問い」と「答え」を確認し、「答え」の後に詳しく説明にている部分があることを確かめる。
6~7	○「問い」と「答え」を含む順序をまねして、「くちばしくいず」を作る。
8	○「くちばしくいずたいかい」をひらくリモート(6/26(月)) ・グループごとに、「くちばしくいず」を出し、相手校の児童が答える。(説明をする、聞くことを視点とする。)



<今後の交流予定>

- ・図画工作科の作品をリモートで見せ合う活動(9月頃)。
- ・河輪小学校に行き、直接交流活動(12月頃)。
- ・できれば、来年度も引き続き交流を続けていく。

3 成果(○)と課題(▲)

- 学級の4名だけでなく、他にも学習をする仲間がいることで、相手意識をもったり、競争心をもったりして、より学習が深まった。表現力の育成にもつながった。
- ▲ 教師同士の事前打ち合わせや日程調整が負担であった。